交通安全は家庭から

こどもを交通事故から守るために

小学生歩行者の交通事故の特徴

（令和３年～令和５年）

低学年（1・2年生）が半数近く！

1人で歩くことに慣れていない低学年は、特に注意が必要！

5～6月にかけて急増！

学校生活に慣れてきた頃も、注意が必要！

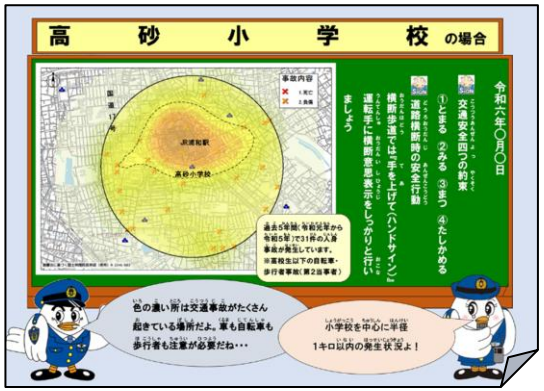
14時～18時に多発！

下校後の時間帯は児童の注意や地域の見守りが手薄になりがちです。
出かける前に声掛けをお願いします！

事故原因の最多は**飛び出し！**

見通しの悪い交差点や建物の出入口付近での飛び出し、走行中、停車中の車の直前直後の横断に注意が必要です！

小学校周辺の交通事故発生状況



イメージ例：浦和警察署管内
さいたま市立高砂小学校

二次元コードスキャンすると、お子様が通う小学校周辺の交通事故発生状況がわかります！

小学校１・２年生の行動範囲は、学校や公園など自宅近くが中心
⇒自宅から１ｋｍ以内で交通事故が多く発生！

そこで、保護者の皆様にお願いです！（裏面に続く）

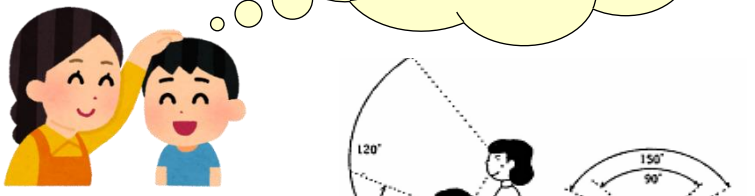
保護者の皆様へお願い

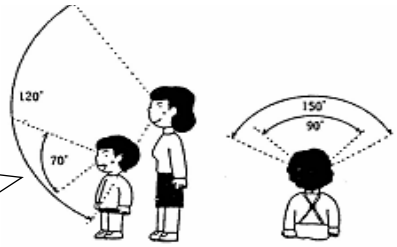
通学路や自宅周辺での実地指導

通学路や自宅周辺を一緒に歩いて、こどもの目線で具体的に繰り返しの指導をお願いします！

Point こどもの目線・具体的に指導

・立ち止まる位置
・見る方向
・確かめる対象





大人とこどもの視野は、こんなに違います！

安全な横断手順の習慣化

信号機のあるところ、信号機のないところの横断手順を身につけさせてください！
こどもが一人で道路を安全に通行できるようになるには準備期間が必要です！

Point 信号機のあるところ・ないところの横断歩道の渡り方を指導

・青信号は必ずしも、安全な色ではありません！青信号でも渡る前には左右を確認、横断中も左右を確認！
・特に交差点では、歩行者用の信号が青でも、右左折して横断歩道を横切る車があることを理解させ、曲がってくる車の動きを確かめる！
・信号機のない横断歩道では、運転手にハンドサインをして横断意思表示。
☞県警ホームページをご覧ください！

県警HPはこちらから

◇ こどもは大人のまねをします。特に長い時間を共有する大人の影響を受け易いといわれています！
◇ 身近な大人である保護者自身が、安全な行動の手本を示しましょう！

埼　玉　県　警　察